

## 0、日本で楽しくムスリム育児講座&座談会通信を読む時間

第1回、第2回育児講座&座談会の様子と参加者の感想文をまとめたプリントを読んでもらいました。

### 1、子育てトピック5

- ①「わからない」「いいえ」を言える子に
- ②しつけとトレーナーの違い 応援団長
- ③どうしても怒ってしまう 参考になる本の紹介
- ④Rちゃんのお母さんの話 記録することの利点
- ⑤楽しい!からはじめよう

### 2、教材について

- ・内容・教材・教具のちがいはなし
- ・あったらいいな…
  - ①子どもクルアーン 子どもハディース(ドゥア&マナー集)
  - ②詩や物語+絵=絵本 +曲=童謡 コンテスト
  - ③チューター制 ペン(メール) パル バディ 教えることで学ぶ

### 3、リーフレットと、サポートブックの紹介

実際にある、広汎性発達障がい理解のためのリーフレット(\*1)と、主に自閉症の子ども用のサポートブックの見本(\*2)を紹介し、ワークショップで行うことイメージを持ってもらいました。

\*1「ええやん ちがっても ~広汎性発達障がいの理解のために~」

監修:大阪自閉症研究会

発行:大阪府こころの健康総合センター

[http://kokoro-osaka.jp/dl/pdd/pdd\\_dl.html](http://kokoro-osaka.jp/dl/pdd/pdd_dl.html)

\*2 サポートブック書式見本

作成:ひょうご自閉症・発達障害支援センター クローバー

<http://homepage3.nifty.com/auc-clover/html/O6.html>

### 4、ワークショップ

- ① 役割分担をする
- ② 話し合いの練習(テーマ「連絡先リスト・MLを作る?」)  
全3回の講座&座談会の終了を迎えて、せっかく集った参加者どうし、今後もつながり続けていきたいとの要望があり、どうやっていくか話し合いを行ないました。その結果、連絡先リストの作成・配布、メーリングリストを作成し、今後も連絡を取り合っていくこと、集まる機会を作ることが決まりました。

★ムスリム子育てメーリングリストについて★

「日本で楽しくムスリム子育て・親子の会」

2010年5月、初の「親子の会の集い」が行なわれました。お問い合わせは

ML 管理人さん [enjoy\\_muslim@freeml.com](mailto:enjoy_muslim@freeml.com) まで。

③本題：リーフレット・サポートブックを作るとしたら  
アリフチーム、メリクチームに分かれて話し合いと発表が行なわれました。

<アリフチーム（リーフレットの目次づくり）話し合った内容>

- ・どのような人を対象にするか？大人か子どもか？  
→ムスリムでなくて、自分がムスリムの子どもと知り合った親、  
学校関係者を対象にしてみた  
→結果的に、読んだ親の方がお子さんに話をすることを想定して、  
なるべく分かりやすいようにした
- ・宗教自体に知識があまりないことを想定して、ハードルを低めに

できあがった目次

- ムスリムの子ども
- 1、イスラム教とは
- 2、イスラム教徒の子どもたちの生活
- 3、日本にあるイスラム機関

- 1…ムスリムを理解するためには避けて通れない説明。みんなに分かりやすく。
- 2…子どもたちが、ムスリムの子どもたちをみて、どうして自分たちと違うの？  
と思うようなことを、Q&A形式でもりこみたい。例えば、給食があるのに  
なぜ食べられないか、服装のこと、断食のこと、クリスマスのことなど。
- 3…さらに知りたくなった人が行きやすい、きっかけをつかみやすいために。

<メリクチーム（サポートブックの目次づくり）話し合った内容>

- ・サポートブックをだれ宛に作るのか  
→幼稚園や学校の先生に、これだけは知っておいてほしいこと

できあがった目次

- サポートブック
- 1、本人の情報
- 2、連絡先
- 3、かかりつけ医
- 4、ムスリムとしての生活習慣
- 5、給食
- 6、トイレ
- 7、礼拝
- 8、断食
- 9、学校行事
- 10、教科

- 4…いわば五行六信を、かんたんに。先に知っておけば、後からこれはダメ、あれはダメ  
とごちゃごちゃなるより分かりやすいのでは。
- 5～10…重要と考える順に並べてみた。トイレに関して、男子が小でも座ってしたり、  
ペットボトルできれいにしたりするため個室に入る場合、予め言っておいたほうがい  
いかも。礼拝、断食は年齢によるが、その子どもの状況に合わせて言っておく。9は、  
他の子と対応が違うことがあれば、予め話をしておく。10は、服装のことや、各家

庭により音楽や図画工作の内容等。検診でパンツ 1 枚で並ばないといけないとか、遠足や宿泊行事に何かあれば。

## 5、子どもたちに参加記念メダルの贈呈

お母さんたちが学んでいるあいだ待っていてくれた子どもたちに、託児担当者による手作りの記念メダルを贈呈しました。

## 6、参加者の感想

—講座&座談会（ワークショップ）3について—

★他の参加者の方々の感想、意見がきけてよかったです。また、同じ時間を共有でき、インチャアッラー同じ気持ちを共有できたことも、とても幸せでした。やはり友人、知人はたくさんいるとつらさ1/2幸せ2倍です。ワークショップの作業は初めてというか懐かしい感じもしましたが、もっとたくさんのムスリマ、ムスリムと集ってより良いものを作っていけると良いです。

★子どもが学校に通い出すと、社会に触れる機会が増え、家では当たり前でやっていることをきちんと伝える必要が出てきました。すでに体験したお母さん方の話をきくと勉強になります。

★子育てトピック5の④で「話を記録する」というのが興味深いです。普段、子どもを保育に預ける時に家であったことを書くのですが、保育士も園であったことを書いてくれるのでお互いの目線で子どもの成長を観察できて良いと感じてました。ワークショップ＝学校生活、日常生活を見直すと、イスラム教を信じていくのには気をつける点が多くあることにびっくりしました。

★今、小学生、幼稚園と子どもたちが通う中で、様々なできごとに対応ができないことが多く増えていました。思いもよらずサポートブックやリーフレットの紹介に、あ～、こんながあるととっても良いと思いました。子どもたちも学校内で生活が続いていると守りたいこともだんだんあきらめてしまったりなどのことがあり、難しいことに直面しています。親の私は気になることだらけ。そんな中で子どもたち本人がどのように切り開いていくか、応援していけるようになりたいですが、それには同胞の交流は、もうぜったい必要！！と思います。今回の講座で終わらずこれからも集まる時間があればと望みます。

★教材などについてももう少しわしく話し合いができたらよかったですと思いました。リーフレットなどがあればいいなと思っていたのですが、実際の内容について考えていくと難しいなあと感じました。

★毎回参加するのが楽しくて今回が終わりです。住んでいるところのモスクでも毎週集まりがあり、いろいろなムスリマの方とお話させてもらっていますが、参加メンバーがここでは異なるので、また違った意見等きけてとても勉強になります。ワークショップ＝時間が決まっていたので集中できてよかったです。実際使えるものにするにはより多くの意見により、よりよいものへとになっていくかと思います。学校の先生に、子どものことをいろいろ説明してもらおうようにするには、先生の理解度、相性があり、今回のように一般の人向けのリーフレットがあると伝えやすいなと思います。サポートブックに関しても細かい部分で生活スタイルの違いをともに生活する子どもたちがどう理解してくれるかが一番問題だと思いました。先生がどのように説明するかにかかっているのですが、人

と違うことを受け入れるのが苦手な日本の教育スタイルの中で生活するために、子どもをどう育てれば良いかな・・・とつくづく思います。

★カードやタイマーを使う時、子どもにとって楽しいと思うことから使い始めると良い、逆にネガティブなことから使うとそれら自体が嫌いになるという話をきき、参考になりました。日本のような非イスラーム圏で育っている子どもたちにとっては、「イスラーム学習1～3」のように絵が無く抽象的な言葉が多いテキストは、ある程度大きい子向けかも知れない。絵や写真など（視覚に訴える）が多い本を使って、読み聞かせから始めた方がいいのかなと思った。若者が小さい子の相談に乗ったり、教えたりするチューター制は良いアイデアだと思った。教えることは本人にとってもとても勉強になるし、キャンプなどの際実践してみると良いと思った。連絡先リスト、MLなど、せっかくここで出会った姉妹たちと今後もいろいろ相談したり、情報交換できると良いなと思っていたので、具体的な形になって良かったと思う。私たちは「サポートブック」の目次を作成したが、その話し合いの過程でいろいろな考えのムスリムがいることを改めて感じた。サポートブックは学校の先生へ子どもの行動やムスリムとしての習慣を伝えるのに実際に役に立つと思った。

★・ムスリムであることを自覚すること、自覚させることが大事であることを再認識したと同時に、過剰に意識しないことも大切だと思いました。・ムスリムでない人たちにムスリムとの相違を理解してもらうのはダアワの点からも大事だし、日々の生活の上でも必要不可欠です。でも相手に理解を求めるよりも先にすべきことがあること、また、「ムスリムが何か、イスラームが何か、わからない人がいる」ことを自覚した上で、相手に理解してもらうよう努めたいと思います。・今回、知り合った方と同様、子育てに関わるムスリムの方と交流していければ、日本でムスリム育児も楽しくなると思います。

—2009年度日本で楽しくムスリム育児講座&座談会（全3回）を通して—

#### ★子育て座談会第三回を終えて

講座と座談会があると知ったのは、ちょうど子供が反抗期の真っ只中で、私はどう扱ってよいのか分からず、子供もうまく自分が伝わらないストレスからイライラしていた頃でした。その上私は「母として」ではなく「ムスリマとして」の子育てに悩んでいました。

第一回講座では、そんな私を目覚めさせてくれるものでした。家族からよく「もう二歳なのだから、スーラのひとつでも覚えたでしょう?」と言われていましたが、身辺自立ができていない子、自分の子供で言えばオムツはずれが完全でない、着替えが自分でできない子にスーラを暗記させるほど先の見えない教育もないものだなと、気付かせられました。その後、子供の成長を一から見直していき、まずは「人間の母として」の子育てから始めていこうと確認できました。

第二回講座では、第一回に痛感した親同士の横のつながりをもっと広げなくては、と更に考えることになりました。そして実際に親の会を運営している方と会の始まりやメリット、デメリット、問題点などをお話できたことで机上の空論に終わらず、これからの私たちの課題に近づけたと確信しています。

全ての講座を終えて、やはり一番参加してよかったと思い、楽しかったのは第三回のワークショップでした。それまでの講座、座談会で、みんなで作る子育て、つながりを大切にする子育てが日本という非ムスリムの国で育つ幼いムスリムのためには本当に大事だと身にしみ、何かやりたい、やらなくてはと思わせてくれた最後に、実際にどう始めていけばよいのか、自分の子供とは違う年齢の子供たちに（その親に）これからどんな課題があるのかが明確になりました。

十数人のムスリマに出会えたこと、たくさんの子供たちに出会えたこと、これからの子育てに元気をもらったこと、そしてあの大切な時間のことがまだ私の心に強く幸せな時間として残っていることをアッラーに感謝しています。だからこそ、この講座、座談会を無駄に終わらせることなく出会ったムスリマ母さんたちとのつながりを大事にして、育っていく子供たちがより健やかに幸せにムスリムとして育っていけるようにささやかですが努めたいです。

★今回の講義に参加してそれぞれに学ぶものがあり、毎回とてもアルハムドリッラーという気持ちでした。再度内容を振り返ると三回参加できて本当に良かったと思いました。一回目では今の自分の子育ての反省点を振り返ることが出来たとともに、そのためにどのように子供への接し方を改善したら良いのかが示してもらえました。一回目の講義では具体的な例を示すものが多かった中で「世界を感じるちから＝アッラーを知るちから」は今一つ私の中ではよくわかりませんでした。

しかし二回目の講義の中で、「大事なものは、ムスリムとして育ち、日本で生きていける力をつけること」、「周りとの調和を保ちつつムスリムとして生活できるようになる」という言葉を見て私の中では理解できました。

そして三回目の講義でワークショップをして二回目の講義で言われた「外に訴えかけるより、自分たちの中での結びつきを強めること」の重要性が理解できました。勿論サキーナさんの体験談やこっこの会での活動内容を聞いたことはとても参考になりました。それがワークショップをするなかでグループのメンバーで意見を出し合うことで、日本で生活・子育てをするなかでどんな方向性で何を課題としているか体験できたからです。三回の講義に参加することでそれぞれの講義内容をより深く学ぶことができたように思いました。一回目では「育児とは？」を二回目では「楽しく育児をするためには？」三回目では「日本でムスリム育児をするためには？」を教えてもらったように思います。

教育の基本は示すことと教わったように、まずは親である自分がアッラーという存在を知る事ができたことに感謝する姿を見せることかな・・・と思います。そして、サキーナさんに言われた様に批判からは何も生まれないのだから理解してほしいを前面に出したり、理解してもらえないことに批判的になるのではなく、少数派であることを自覚しつつも引け目を感じることなくノンムスリムの人とも関わってゆくこと。これを実践していくのはまさにジハードで自分との戦いであると思っておりますが・・・。だからこそアッラーという存在を拠り所とする仲間との交流が本当に大切だと思います。それが心の支えとなり、またムスリム以外の人と関わりの際や学校での問題の対応の良きアドバイスや対処法を知ることができるからです。日本で楽しくムスリム育児をする「ヒントは自分の中にある！」であり、それを探するために仲間づくりが必要であると思えました。

毎回とても楽しい講義をしてくださりジャザーキッラーフハイラン。ワッサラーム。

★3回通しての講座は実際に役に立つお話が聞けて、とても有意義でした。

「ムスリム育児」または「イスラーム教育」というと、真っ先にクルアーンやハディース、ドゥアーなどが頭に浮かびますが、最初の講義で「基礎は身辺自立」であることを強調されていました。はじめは「？」（ムスリム育児と身辺自立とどう関係があるのか）と思いましたが、お話を聞いているうちに納得しました。「身辺自立」のお話から「感覚統合」のお話、そして「世界を感じるちから＝アッラーを知るちから」に、まさにその通りだと思えました。私たちは一人で生きていくのではなく、周りのいろいろな人との関係の中で生きています。またアッラーの創造された被造物である自然界の中で生きています。日々目にするもの、聞くもの、人との会話の中にはアッラーから私たちに宛てられたメッセージが隠されています。それを読み取る力が必要です。ただ単に目で見ると、耳で聞くだけで

なく、常に五感を研ぎ澄まし、心のアンテナを張り、（心で）観る・聴く・感じる力をつける必要があると思います。その基礎が「感覚統合」であり、「身辺自立」なんだと理解しました。

クルアーンを暗記すること、ハディースやドゥアーを覚えることは、それはそれですばらしいことですが、一番重要なことは「アッラーを知ること」であり、私の子育ての目標もまさに「アッラーを感じる心をもつ」ことです。

私は子供たちに特に「イスラーム教育」（クルアーンやドゥアーの暗記、細かい戒律を教えるなど）ということにはしてきませんでした。幼いころから折に触れ、「アッラーがあなたを望んだからこそあなたは生まれてきた。アッラーはあなたを愛し、いつも共にいる。アッラーはいつもあなたを見ていて、全てを知っている」という言葉かけを繰り返してきました。アルハムドリッラー、子供たちはアッラーを愛し、アッラーとの繋がりを感じ、イスラームの信仰についてもごく自然に身に付いていきました。私はイスラーム法（規則や戒律）については後から教えてもよいと考えていますが、核となる内面的な信仰や目に見えない心の教育は一番はじめに伝えようと思っていました。それが信仰の基礎だからです。アッラーを愛するようになれば、自ずと戒律にも従いたいと思うようになると思います。私はあまり細かいことにはとらわれずに、本当に重要なことはしっかりと伝え、できるだけおおらかな気持ちでのびのび子育てしたいなと思っています。

3人の子供を育てていて実感していますが、子育てはマニュアル通りにはいきません。子供は一人一人個性も違うし、一人一人のペースもあります。自分の子供の様子を見ながら、臨機応変にその子その子にあったやり方に変えてみるという柔軟性も必要だと思います。

それから日本という非イスラーム圏で生活する私たちムスリムは、周りの人々（ノンムスリム）とうまくコミュニケーションしながら良い関係を保っていくことが大切だと思います。2回目の講座の「こっこの会」の紹介の際にも話が出ましたが、自分たちを理解してもらおう、自分たちの主張を認めてもらおうという姿勢が前面に出ると、相手は構えてしまい、結局は理解されなくなってしまいます。幼稚園、学校、会社などノンムスリムとの付き合いは避けて通れません。ムスリムだけで固まって孤立するのではなく、ノンムスリムの人たちと積極的に関わっていくことも大切だと思います。

日本の社会で100%イスラームの教えを守って生活していくのはとても難しいと感じます。絶対に譲れない部分、妥協できる部分など、状況によってはそれぞれ判断しながら折り合いをつけていくことも必要かなと思います。「イスラームではこうですから私は〇〇できません、〇〇します」と一方的に主張するのではなく、相手を尊重し理解しようとする姿勢はムスリム側も持つ必要があります。ノンムスリムの人々がネガティブに感じるような言動には気を付けなければならないなと思いました。ある意味では、私はイスラームオンリーよりも、むしろいろいろな考え方の人々がいる中で、お互いの考えを尊重し、違いを認め合い、理解していく姿勢を身に付けていくことも大切だと感じています。

3回目の講座の際に、グループでリーフレットとサポートブックを作るワークショップがありましたが、同じムスリムでも家庭によって考え方や解釈も違うことがあるし、学校への要望の度合いも様々だなと実感しました。

同じ考え方のムスリムが集まってリーフレットを作ることは可能かもしれませんが、日本のムスリム全体の考えを一つにまとめてリーフレットを作成するのは非常に困難だと感じました。むしろ個別にサポートブックを作成して幼稚園や学校と相談するほうがより易しいかなと思いました。

イスラーム関連の教材については、いろいろなアイデアをもって自分なりに教材研究をしている人もいるだろうし、それぞれが使用している教材を紹介しあう場があればいいなと思いました。そしてそれを皆で共有できればいいなと感じました。

★託児担当者のお一人の方の感想★

今回の講座では託児(にも及ばない遊び役)という立場でしたが、独身の私にとっては育児の練習という貴重な体験になったという意味でも、価値のある講座だったと思います。育児をはじめとする教育の環境は、地域社会全体が子供を守っていくという姿勢が薄らぐ昨今、ムスリムに限らず難しいものになっていると感じます。それだけにこうして集ったり、話し合ったりすることで専門家と一緒に問題と共有できるのは、とても心強いのではないかと思います。私個人としては、日常生活でムスリム社会と関わる機会がほとんどないので、ムスリマの皆さんと一緒に時間を過ごせるだけでも有難いです。つたない託児でも温かく見守って下さって、ありがとうございました。